

2019年3月 11日
第119号

全労連

全労連
憲法・平和グループ

憲法 平和闘争ニュース

東日本大震災・福島第1原発事故から8年。復興庁によると避難者は5万2000人、福島第1原発による避難者は4万1000人となっており、実際は、もっと多いと言われています。こんなにも大勢の方が故郷に戻れない状況です。原発事故は収束していないにもかかわらず、安倍政権と東京電力は原発事故被害者の賠償打ち切りや、放射能汚染水トリチウムの海洋放出、リアルタイム線量計の撤去など福島切り捨て政治を行い、原発事故などなかったかのように原発再稼働を進めています。原発に頼らなくても暮らしに支障がないことは証明済みです。野党4党が共同提出した「原発ゼロ基本法案」を早期に成立させ、原発ゼロ・再生可能エネルギーへの転換を実現させるため、引き続き奮闘していきましょう。

東日本大震災・福島第1原発事故から8年 原発ゼロ・イレブン宣伝

安倍政権の福島切り捨て政策を許さない!

原発ゼロ、再生可能エネルギーに転換! 原発ゼロ基本法を作ろう!



全労連は3月3～12日を「原発ゼロ旬間」と位置づけ、各地での行動を呼びかけています。中央では3月11日昼、新宿駅西口で原発ゼロ・イレブン宣伝を行い11人が参加しました。

国公労連の川村好伸副委員長は「福島原発事故は、人々の生業も故郷も奪い、8年たった今日でも汚染水は増え続け、事故の収束のめどさえたっていない。すべての原発の再稼働を中止し、廃炉とするよう声をあげよう」と呼びかけました。

日本医労連の森田進書記長は「岩手、福島、宮城の仲間たちは、日常的に人手不足のなか、大震災後も医療・介護を守ろうと奮闘し続けている。人員がもっと十分であったならもっと救える命があったのではないかとの思いを持っている。365日過労死と背中あわせで頑張っているのに、さらに医師の残業時間を年1860時間まで認めようとの議論がされている。医療・介護がどうあるべきか考える必要がある。大震災のことを忘れず震災の教訓から学び、被災地だけでなく国民全体の問題として考えていくことが大事だ」と訴えました。

全教の山本乃里子中央執行委員は「福島の子供たちは、避難先で友だちができない、いじめられた、外遊びができなくて体力が落ちた、不安や悩みを相談できず傷ついてしまったなど辛い思いをしている。どこの原発でも事故は起こりうる。事故から学ばないといけない。十分な安全基準などない」と強調しました。

生協労連の渡辺一博副委員長は「震災後、宮城の石巻、福島が生協に支援に入った。店舗で署名を取ると、『原発はなくしてほしい』と将来を心配する声が聞かれた。8年経っても困難な生活、救済は進んでいない。日本は地熱発電の技術が世界一だという。再生可能エネルギーへの転換は可能ではないか」と訴えました。

全労連の長尾ゆり副議長は「『私たちには、日本国憲法で保障されている、幸福追求権、生存権、財産権という権利はないのでしょうか。私たちは幸せになることは許されないのでしょうか』そう訴えた福島・浪江町の馬場町長は昨年亡くなられた。福島は終わっていない。福島を忘れてはならない。安倍政権の福島切り捨て政策を許してはならない」と批判。「世論調査で『将来的に原発ゼロ』『今すぐゼロ』合わせて75%、国民は圧倒的に原発ゼロを願っている。野党共同提案の『原発ゼロ基本法』を成立させ、原発のない未来を子どもたちに手渡そう」と呼びかけました。

最後に全労連の野村幸裕事務局長が訴え。「安倍首相は、復興は進んでいると言うが、故郷に帰れる、今までの商売に戻れる、自殺や過労死がないなど、生活の基盤が安定することが真の復興」と指摘。「政府は原発をベースロード電源とすることを変えようとしなさい。原発がなくても電力はまかなえる。原発ゼロ、再生可能エネルギーへの転換を求めていこう」と訴えました。

原発をなくす全国連絡会が3.9全国集会

フクシマを忘れない！ 原発いらない！ 再稼働反対！

原発をなくす全国連絡会は、3月9日に上野恩賜公園野外ステージで「福島を忘れない3.9全国集会ー市民と野党の共同で原発ゼロへ」を開催し、1300人が参加しました。集会では、被災者に寄り添い、いのちと人権を守るために「原発ゼロの未来」と「国と東京電力に責任を果たすこと」を求め続けるアピールを確認しました。日本共産党の山添拓参議院議員、岩渕友参議院議員があいさつしました。



のちと人権を守るために「原発ゼロの未来」と「国と東京電力に責任を果たすこと」を求め続けるアピールを確認しました。日本共産党の山添拓参議院議員、岩渕友参議院議員があいさつしました。

全労連の小田川義和議長が主催者あいさつ。「全国に避難し、帰れない人たちが大勢いるのに安倍首相は原発事故を終わったものにしてようとしている。野党の共同で原

発ゼロ基本法が出されたが、1度も議論されずに1年が経った。原発は安全でもクリーンでもない。人格権が侵される、亡国の政策だ。原発ゼロ基本法を成立させ、政治を変え、原発ゼロの社会を実現させよう」と呼びかけました。

脱原発をめざす首長会議世話人・前湖西市長の三上元(はじめ)さんがメインスピーチを行いました。「オーストリアでは、できたばかりの原発を住民投票で廃炉にした。世界で4つの原発が、できても使われていない。島根原発も使われていないので、『5番目の原発にしよう』と島根で話す機会があると訴えている」と強調。「浜岡原発を止めたい。中部電力の株主総会で『原発を止めると株価が上がりますよ』と訴えようと思う。日立がイギリスでの原発建設を凍結し、事業を中断すると発表したことで株価が上がった。日立が証明している」と話しました。

東海村前村長の村上達也さんは、「東海第2原発再稼働をめざすというがとんでもない。日本原子力発電の原発は1基も動いていなのに存在し続けている。それは、東電など電力会社が金を出し続けているから

だ。その金は電気料金から出されている。ばかげたことだ」と指摘しました。檜葉町で高2の時に被災した松本友子さんは「家族バラバラで避難生活を送った。私は長野で大学生活を送ったが、『出身はどこ?お盆には帰るの?』と聞かれるのが辛かった。その時は福島のことを忘れたかった。祖父は檜葉に帰りたいたいと言いながら亡くなった。私は福島に戻り、原発をなくす運動をしている。被災者を切り捨てるなど声を上げ続ける」と決意を話しました。

首都圏反原発連合のミサオ レッドウルフさん、さようなら原発 1000 万人アクションの井上年弘さんが連帯あいさつ。さようなら原発茨城ネットワーク、原発をなくし自然エネルギーを推進する大阪の会の代表が発言しました。集会後、御徒町の西町公園までパレードを行い、沿道の人たちにアピールしました。

★当面の取り組み★

総がかり行動実行委員会「19日行動」

3月19日(火) 18時30分～ 国会議員会館前

憲法共同センター学習会 新「防衛計画大綱」と「中期防衛力整備計画」の問題点(仮題)

4月22日(月) 18時30分～20時30分 全労連会館2階ホール